

三 学校の^{うつ}_か移り変わり

(一) むかしの学校

わたしたちの北野小学校は、昭和六十年（一九八五）に岡崎市的小学校の中で四十一番目にできた新しい学校です。約五百メートルはなれたところにある矢作北小学校から分かれてできました。では、矢作北小学校の前はどうな学校で、子どもたちはどんな学校生活を送つていたのでしょうか。むかしの学校のようすを調べながら、学校の移り変わりをたどつてみましょう。

学校ができる前 江戸時代の一般の子どもたちの教育が行われたところを、寺子屋といいます。そこでは、「読み、書き、そろばん」などを中心に勉強しました。矢作にも、当時十三ほどの寺子屋がありました。

森越義校

明治六年（一八七三）

七月四日、村の有力者たちがお金を出し合つ

39

て、森越村長寿寺に森越義校を建てました。わたしたちの学校の誕生です。森越村、北野村、橋目村の子どもたちが通いました。



森越義校のあった長寿寺

第二大学区第七中学区第十八番小学森越学校となりました。男女とも、六才から十三才までの子どもは、全員学校へ行つて勉強するきまりになりましたが、実際には、子どもも大切

な働き手だったので、学校へ行くことができたのは、くらしにゆとりのある家の子に限られていました。

また、明治六年八月に舳越村願照寺にできた舳越義校は、その後舳越村の郷倉を仮校舎として第三十番小学舳越学校となりました。

長瀬学校 明治十三年（一八八〇）

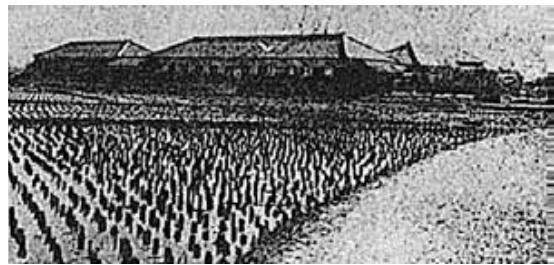


明治 37 年から使用した最初の国定教科書

には、森越学校と舳越学校が一つになつて長瀬八幡宮の東に長瀬学校がつくられました。校舎は、芝居小屋の古材が使われたとてもそまつなものであり、教室は板で区切られているだけでとなりの先生の声などがよく聞こえたということです。そのころは四年生で卒業となり、人数は一クラス二十名で、全校で八十名くらいでした。そのころは四年生で卒業となり、暗記もありました。勉強は主に読み方（国語）で、暗記もありました。鉛筆・ノートはなかつたので、石板と石筆、毛筆と習字紙を使つていました。また、体操（体育）は、八幡宮の境内でしていったということです。

明治二十五年（一八九二）には、北野・森越・橋目・舳越・中園・東大友・西大友の各村がいつしょになつて長瀬村となり、「長瀬尋常小学校」となりました。そして十年後、今の矢作北小学校の場所に移り、校舎も新しくできました。

矢作第二尋常小学校 明治三十九年（一九〇六）、長瀬村も他の村といつしょになつて矢作町になり、翌年、学校の名前も変わりました。そして、小針の子どもたちもこの学校に通うようになりました。児童数は二百九十名です。



矢作第二尋常小学校（大正10年）

このころは“教育勅語”（天皇陛下のことば）が教育の目標で、祝日に行われる儀式には、必ず校長先生が読みました。卒業までの六年間にそれを何回となく聞き、みんなで一字一句もまちがえずに暗誦しました。

このころの写真を見ると、男子は学帽、女子は長髪で、どちらも木綿の着物を着て、はかまをつけています。授業の始まりは、今のようなチャイムではなく、陣太鼓や半鐘で合図をしました。



柳の木と運動場（大正7年）

大正時代に入ると、運動も活発になり、

村ごとに競う「字伝競走」（駅伝競走）がさかんでした。

矢作町の中を十六区に分けてリレーするのです。青年の部もあり、学区をあげて盛大に応援しました。遠足は一・

二年生は岩津天神、三・四年生は村積山、五・六年生は明治用水頭首工（水源）へ、風呂敷におぎりだけを包んで、背負つて歩いて行きました。

昭和の時代になると、やつと、卒業写真に男子の学生

服姿が一人だけ見られます。女子は、それから十年ほど後の写真の中に一人だけセーラー服の子がいます。着物から洋服に変わるのは、男子の方が先でした。

昭和三年（一九二八）には、教育館という学習資料を展示する教室ができるなど、教育の研究がさかんでした。村ごとに学力テストをして、競うこともありました。



男子組卒業写真（昭和4年3月）

矢作町北国民学校

昭和十六年（一九四一）、太平洋戦争が始まり、戦争に勝

43

つための国民教育をするために学校の名前も変わりました。

戦争が長びくにつれ、物が不足し、食べ物もなかなか手に入らなくなりました。

た。そこで、五キロメートル以上もはなれた東洋紡の土

地（現在の名鉄矢作橋駅南）を借りて耕し、麦やサツマ

イモをつくりました。往復二時間もかけて歩き、しかも

半日も作業をするのは、小学生にとつては、とてもつら

いことでした。運動場も耕して、サツマイモや大豆をつ

くりました。

勤労奉仕といって、夏は桑の木の皮むき、秋は稻かり

の終わつた田の株ぬき、冬はその田に麦や菜の花などの

作物をつくるための耕作と、机に向かつた勉強より、む



矢作町北国民学校（昭和 16 年）

しろ勤労が中心でした。
せんろう

戦争中の生活

ある教室は、無線機を組

むせんき

み立てる作業場になつ

さぎょうじょう

て、そこでおとなの人たちが働き、小学生も手伝

てつだ

いました。

また、校門を入つて右手のところに防空壕と大きな穴が掘られました。空しゆう（飛行機からの攻げき）の時、避難するためのものです。

クラスでくじ引き

矢作第二尋常小学校へ入学しましたが、翌年名前が変わり、太平洋戦争の渦に巻きこまれました。校庭には、サツマイモや大豆が植えられ、体育の時間には“イナゴ取り”をして、それを食べました。衣料品やはき物までが統制下に置かれ、運動靴がクラスでくじ引きで配給されました。六年生のとき、戦争は終わりましたが、修学旅行ができなくて、残念に思われてなりません。

（昭和二十一年卒 太田 清）

何かむなしさが

小学校の思い出といえば、戦争中でのきごとににつきます。イナゴを取つたり、運動場にイモを植えたり、登校途中でも空しゆう警報になつて帰つてしまふこともあります。もちろん、授業というものは落ち着いてできなかつた時代でした。

遊びざかりのわたしたちにとつて、勉強をしないことはうれしいはずでした。空しゆう（飛行機からの攻げき）の時、避難するためのものです。

（矢北百年誌より）

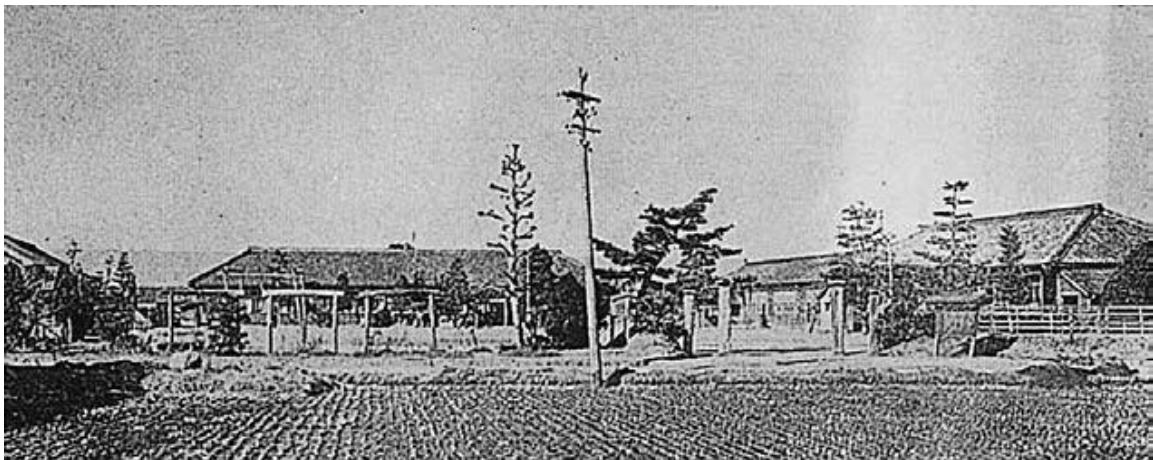
(二) 矢作北小学校

矢作町立矢作北小学校 昭和二十二年（一九四七）に学校の名前が変わりました。戦争の後で、みんなの心がしずんでいましたが、そんななかでも新しい生活を切り開いていこうとする気持ちが人々の心の中で芽生えました。野球部ができて試合に出たのもこのころです。また、昭和二十五年（一九五〇）に井戸の水を利用した石張りのプールができました。消防団や青年団がお金を集めに走りまわり、学区の人たちも力を合わせて働き、苦労してつくりあげたプールでした。

その年、大型のジェーン台風におそれ、古くから子どもたちの心のささえになつてきた運動場の大きな柳の木がたおれました。しだいに世の中が変化していき、宿泊する臨海学習や校内放送、学校給食なども始まりました。



井戸水を利用した石張りのプール（昭和25年完成）



岡崎市立矢作北小学校（昭和 30 年）

岡崎市立矢作北小学校 昭和三十年（一九五五）、矢

作町が岡崎市に合併し、学校も矢作町立から岡崎市立に変わりました。

このころから学校給食も変わつてきました。それまでは粉ミルクとパンだけでしたが、学校の給食室でおかずもつくるようになりました。初めのころは献立表はなく、子どもたちが自分の家から野菜を持ち寄り、それを見て給食のおばさんたちがおかずを考えました。献立は、たいてい、パン、脱脂粉乳、野菜の煮物、みそ汁、お茶でした。また、燃料には、まきを使つていましたが、その後石炭に似たコークスにわり、やがてガスになりました。今のように給食センター

でつくられたものを食べるようになつたのは、昭和四十九年（一九七四）からです。



完成した新校舎（昭和 43 年）

昭和三十四年（一九五九）には、超大型の伊勢湾台風におそれ、大きな被害を受けました。ほとんどの家は屋根瓦が飛んでしまいました。学校もガラスが何枚も割れたり、渡りろうかの屋根や校舎の瓦が裏の田へ飛んでしまい、あちこちで雨もりがしました。

昭和三十七年（一九六二）には体育館が完成し、六年後には校門近くに鉄筋三階建ての新校舎ができました。

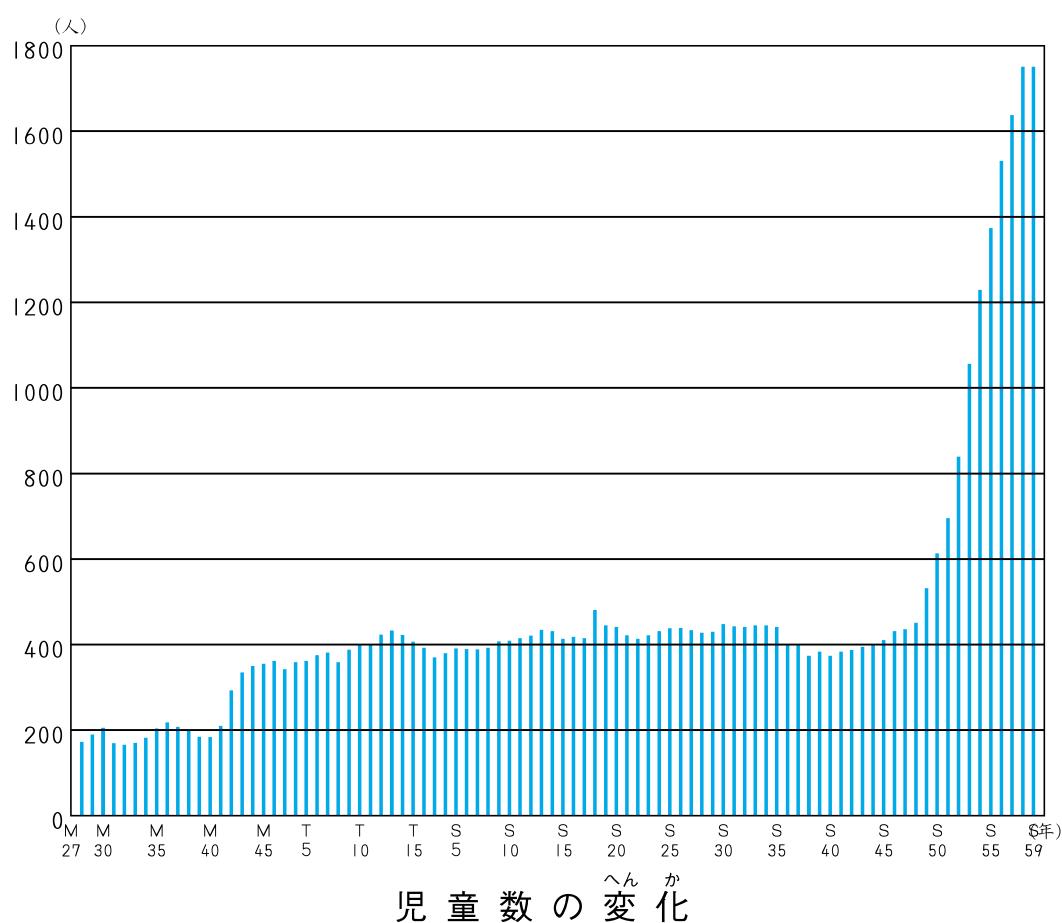
学校の施設も整えられ、理科室・音楽室ができたり OHP の機器、印刷用の輪転機なども使われるようになり、テレビがどの教室にも置かれました。

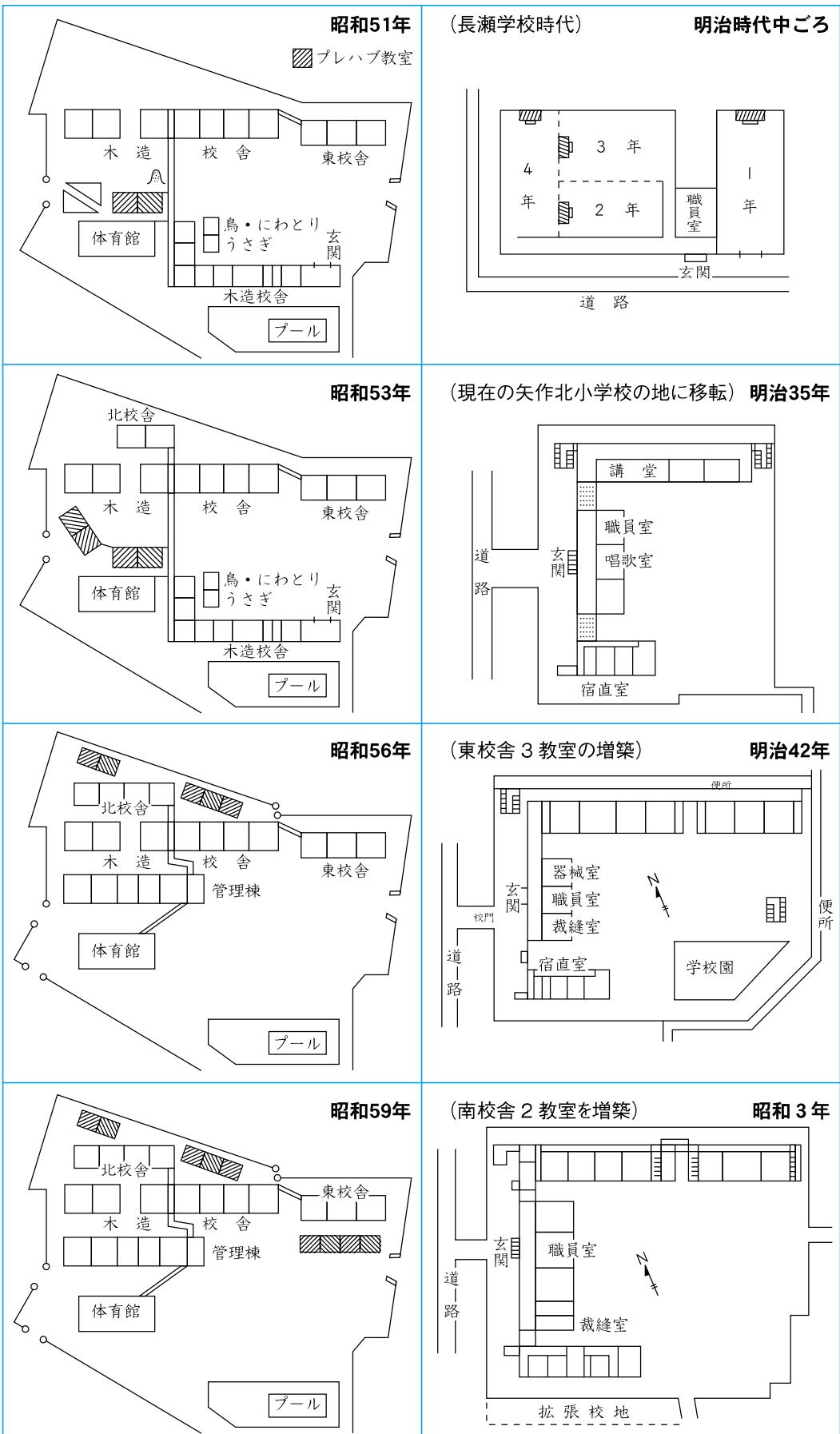
昭和五十年代に入ると、今まで田であつたところが

うめ立てられてどんどん新しい家が建つたり、三菱自動車工業の社宅ができたりして、児童数が急速に増えました。それにともなつて校地を広げたり、プレハブ校舎や新校舎が建てられ、学校は年々ようすが変わりました。

昭和四十九年（一九七四）には十四学級だつたのが、十年後には四十一学級となり、児童数も十年間で三倍以上に増えました。児童数は約千八百名で、教室が足りないので運動場にも四

学級分のプレハブの教室が建ち、合わせて九学級がプレハブの教室でした。





こうしゃ
うつ
か
校舎の移り変わり

(三) 北野小学校の誕生と歩み



完成した北野小学校（昭和 60 年度）

児童数がどんどん増えるので、新しい学校を建てるようになりました。学校の場所を決めるために、何回も話し合われ、その結果、北野町の田畠のまん中に新しい学校が建てられることがになりました。二十けんほどの地主さんの田畠をうめ立ててできたのです。先祖から受けつがれてきた大事な土地を手ばなすことは、地主さんたちにとつてつらいことだつたでしょう。

昭和六十年（一九八五）四月一日、地域の人々の理解と協力にささえられて、わたしたちの北野小学校は誕生したのです。そして、翌年一月には校歌と校章もできあがりました。校歌の披露の時には、作

りかい
よくねん
きょうりょく
こうしょう
ひろう
さく

詞・作曲の両先生を招き、全員で合唱して、地域の方々とともにできあがつたことを喜びました。

北野小学校校歌

校歌

作詞 稲谷正孝
作曲 黒澤吉徳

一 青空高い 鉄塔の
青空高い 鉄塔の
つやくがなたの 村積よ
福徳豊かに みのり中
広く明かり 北野の子
みんな仲よく 励もうよ
二 小針の古城 古きみ寺の 墓碑の上
古きみ寺の 墓碑の上
はらが昔を 今に
樂しく語る 北野の子
みんな手と手 学ぼうよ

校章の制定について

○制定までの経緯

この校章は、学区の総代会、長老、学識経験者や、岡崎市教育委員会より矢羽根か、北野廃寺の軒丸瓦か等についての指導をいただいて決定された。

○校章づくりの基盤

- 学区の郷土を集約したもので、学区内に親しみやすいもの。
- 北野つ子を象徴するたくましさが感じられるもの。
- 情報洪水の中でも、より強烈に訴えかけるもの。
- 校章として、より新鮮な感覚を印象づけるもの。

○校章の特色

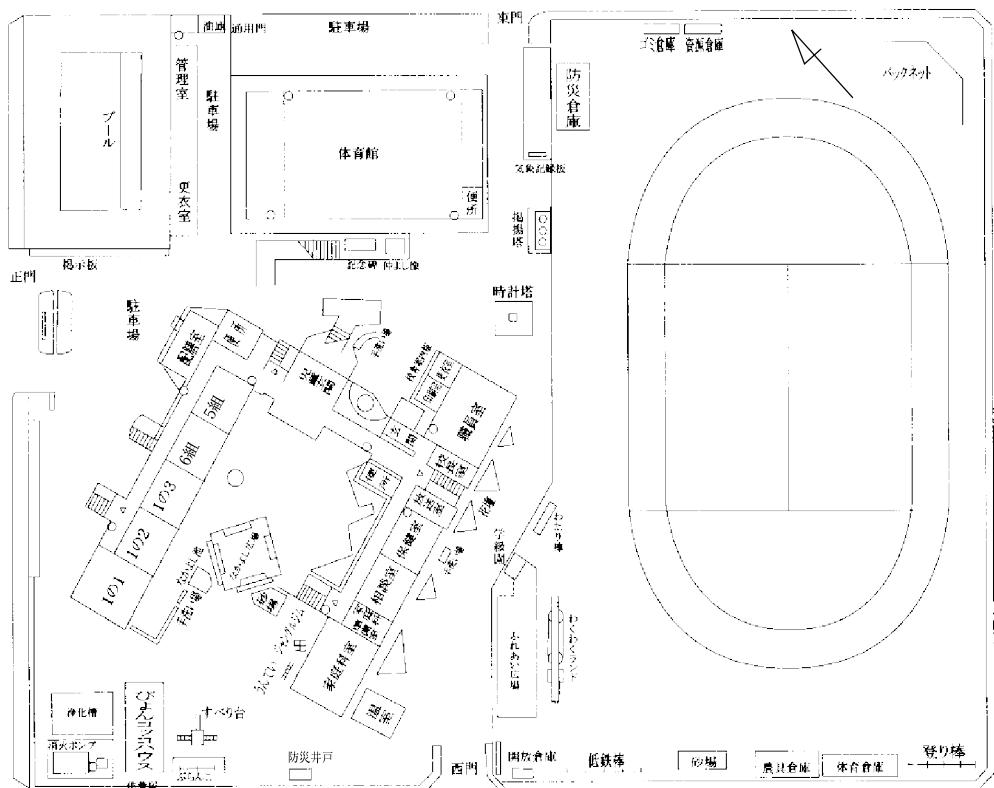
この校章は、学区の古い史跡、北野廃寺の「軒丸瓦」の模様と、最新感覚の書体スリボの「北野」の文字を組み合わせたものである。



開校当初は校舎だけであつた施設も初年度に体育館とプールができあがり、また校庭には木や花も植えられ、学習環境は少しづつ整つてきました。

開校した時の学級数が十九であつたのが、六年後には二十三に増えました。このため教室の数が足らなくなり、校舎の増改築工事が行われることになりました。増改築したおかげで、普通教室が二十三、特別教室が八つになりました。

三十九 南極舎と北極舎の間にあらがい



北野小学校校舎配置図（平成 26 年）

完成を祝う式が行われました。



わくわくランド

創立十年を迎えた平成六年には、みんなで遊ぶことができる「わくわくランド」が設置されました。また、北野つ子がめざす目標「**きたえよ体** **ただせよ心**」**のびよ未来へ**」という言葉がきぎぞまれた石碑が、体育館の前に建てられました。

創立二十年の平成十六年に

は、古くなつた鳥小屋とうさ

ぎ小屋を一つにして新しく「**ぴょんコッコハウス**」が完成しました。

創立三十年の平成二十六年には、防災井戸を掘りました。災害時の一次避難場所である小学校に、防災用



ぴょんコッコハウス

の井戸を掘るのは岡崎市で初
の試みで、災害時の飲料水等
に利用される予定です。また、
その有効利用としてビオトープ
を併設しホタルの飼育に役
立てていく予定です。また、
玄関横の校舎案内板、東門近く
の学区案内板を作りかえました。
このような環境の中で、北野つ子は毎日元気よく学習に運動にはげんでいます。

